

50 地下タンク貯蔵所における流出事故の状況（2）

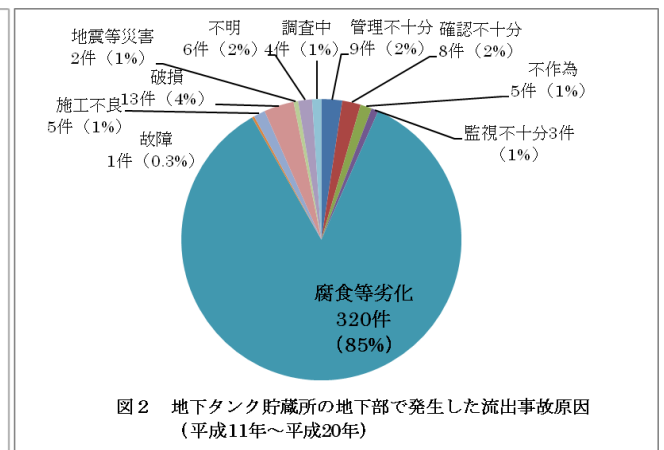
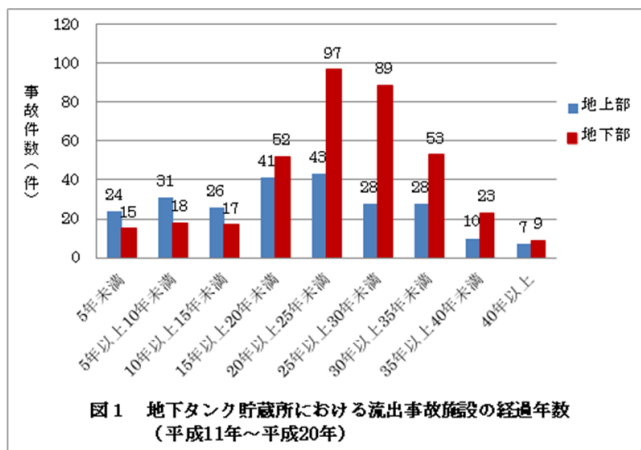
地下タンク貯蔵所では、設置年数の経過とともに腐食等劣化に起因する流出事故が増加しています。

＜地下タンク貯蔵所の設置年数と事故件数＞

- ・ 地下部の流出事故は、設置後 15 年過ぎたあたりから急激に増加し 20 年から 30 年までがピークとなります。30 年以降は減少していますが、施設の減少の影響と考えられます。（図 1）

また、地下部の流出事故の原因は、腐食等劣化が全体の 85% を占めています。（図 2）

- ・ 地上部の流出事故は、人的要因による事故が多いため、経過年数に関係なく平均的に発生しています。（図 1）



地下部で発生した流出事故は、発見が遅れて被害が大きくなりがちです。**腐食防止策を講じるとともに、在庫管理や日常点検等を徹底し、万が一事故が発生しても早期に発見することが大切です**

＜こちらの保安教育資料もあわせて御覧ください。＞

- ・ 「3 1 腐食について（1）」（平成 22 年 5 月 28 日発行）
- ・ 「3 2 腐食について（2）」（平成 22 年 6 月 30 日発行）